

暑熱対策で夏を乗り切ろう！ —牛編—

牛への暑熱の被害は直接的には熱射病がありますが、食欲不振や繁殖などへの影響は、秋になっても続きます。

牛が快適に過ごせる環境を作り、生産性の低下を防ぎましょう。



【畜舎環境対策】

○換気・送風

牛舎周辺を整理整頓し、風通しを良くしましょう。

- ・夏の間だけ窓を取り外せば換気量は 2 倍に
- ・換気扇・カバーのホコリ・クモの巣掃除で、電気代も節減

風速によって牛の体感温度は変化します（右図）。

気温に応じて風速を調整しましょう。

細霧装置は湿度 50% を超えると体感温度を上昇させるので、注意してください。

風速 (m)	体感温度
0.5	-4℃前後
1.0	-6℃前後
2.0	-9℃前後

○日光への対策

直射日光を寒冷紗や緑のカーテンなどで遮断し、屋根の白色塗布（ペンキ・石灰）や散水で、断熱・冷却し、牛舎温度を下げましょう。

放牧場やパドックにも日よけを作るか、日よけがない場合は、放牧する時間帯に注意しましょう。

○夜間の換気

気温の下がる夜こそ、しっかり換気して牛の体温を低下させましょう。

【牛への対策】

○削蹄

肢が痛くて起立を嫌う牛は、お腹の下に熱がたまってますます暑くなります。夏前の削蹄は、暑熱対策に効果的です。

○毛刈り

全身の毛を短く刈ると、体表面から熱が逃げやすくなり扇風機の効果も上がります。まずは高泌乳牛や高齢牛、毛の長い初産牛から実施しましょう。

○飼料給与・給水

飼槽や水槽、ウォーターカップはこまめに清掃してください。搾乳牛は、搾乳直後の 1 時間以内に 1 日の飲水量の 70% を飲むといわれています。この時間帯に全ての牛が十分水を飲めるような気配りが必要です。

また、夜間の涼しいときに新鮮な飼料を給与すると採食量が高まります。

熱射病になってしまったら・・・

症状として、元気消沈、体温の上昇（40℃以上）、呼吸回数の増加、反芻の停止等がみられます。速やかに獣医師に連絡し、到着まで応急処置として、日陰や風の通るところに移動し、頸部を中心に全身に水を 20～30 分かけ続け牛体を冷やします。